

特116

686

江

口

1-3



始



43/116
686

江口 内巻之一卷

此ノ曲ハ本三番目物ノ内ニテモ性立チタ几曲ナリ然シテ位開カニシツトリト謡ヲ宜シトス

役別
ワキ 旅僧
シテ 女
ツレ二人 遊女
九月
二番目

類別
扇 振津國西成郡江口ノ里
漿束附



ワキ 角帽子 着附小格子 水衣 白大口 緞子腰帶 扇 珠数持

ワキツレ二人 同 無地鬘斗目 面深井 (若女ニモ) 白ニツ 葛扇持 鬘 鬘帶 着附摺箔 唐織着流 襟

後シテ 面深井 (若女ニモ) 鬘 鬘帶 着附摺箔 唐織坪折緋大口

ツレ二人 面連面 鬘 鬘帶 着附摺箔 襟赤 唐織着流一人ハ右肩脱キ

造り物 下ゲ棹持 屋形船

一枚表 次才三段月ハ昔乃友あらばト開カニ返シサラリト名乗ハ開カニ道行モ開カニ保乃兄ス

大正 11.30 内交

一枚裏

ト開メ松乃煙レヨリ元へ戻シ「江口表里」を返シ開メル心ニテ謡フベシ

二枚表

「扱き曼あるハ」ト開カニ謡ヒ出シ「海みさるの表あり」ト開メル心「きよや西
行法師」ト気ヲカヘ「アヤ」をいふ途「うわらめ」ト抑へル心「此可き
の事ある事」ト気ヲ変へ「あらうら」ト抑へル心「や彼」ト開メル心ニテ謡フベシ

三枚裏

「あふく」あき成レ此ノ呼ビ掛ハノビト開カニ「忘る年をゆ」物トト開カニ
「空乃かき野」ヨリ気ヲ変へ「れ返顯き出るなり」ト崩ス心「やさきばこ
そ」ト開カニ「詠」トそ勢をせぬ「あふらん」ト気ヲカケル心持「冥其を身」
ト開カニカ、ツテ「人」ト「きき」ト抑へル心「ヨリ」シク進ム心以下懸
合ハワキハカ、ツテ謡フ「此方」あふ「ト前」ノ気ヲ受ケ「言乃」察也ト
カ、ツテ謡フベシ

四枚裏

「ど」を「そ」ト初同ハノンビリト開カニ「心」あ「め」給ひ「了」ト開メテ謡フベシ

五枚裏

「笑」や「う」を「せ」乃「ト地」ハ「気」ヲカヘ「開カニ」以下「地」ハ「サラリト」シテ「ハシツカ」リト謡フ
「君」が「き」ま「さ」る「や」ト「地」ハ「前」ノ「気」ヲ受ケテ「聲」づ「り」して「久」よ「き」り「ト」返シ「抑
へ」テ謡フベシ申入

六枚裏

「扱」ハ「江口」乃「君」此「レ」待謡ハ「前」ノ「気」ヲ受ケテ謡ヒ出シ「月」み「く」も「る」不「思」海「あり」ト
返シ開メル心ニテ謡フベシ

七枚裏

「一」声ニ「段」何「れ」を「ト」サラリト「身」乃「上」に「衣」ありト開メル心「や」若「聖」ヨリ「戻シ
也」は「ち」や「ト」開メル心ニテ謡フベシ

八枚裏

「何」此「身」を「ト」カ、ツテ「わ」づ「く」あ「が」ら「ト」心持シ「月」の「夜」を「を」ば「寝」ぎ「ト」運
ビ「メ」い「や」古「と」は「ト」カ、ツテ「は」寝「ぎ」ト「気」ヲ変へ「以下」ツレ「ハ」サラリト「う」り「く」

九枚裏

「行」く「と」宣「ふ」ト「抑」へル心「秋」乃「水」三「人」ニテ「ノ」ンビリト「月」を「敷」き「レ」ヨリ「シテ」一「人
ニ」テ「サラリト」う「ら」や「う」ト「地」ハ「気」ヲカヘ「う」を「寝」ぐ「ヨリ」開メル心ニテ
謡フベシ

十枚裏

「丈」十二「因」縁乃「レ」リ「地」ハ「ノ」ンビリト以下「シテ」ハ「開カニ」地「ハ」サラリト謡フベシ

十一枚裏

「あ」ふ「い」ち「人」中「天」上「乃」シテ「ハ」開カニ「地」ハ「患」よ「う」ら「き」ト「地」ハ「受」ケテ「あ
よ」シテ「ハ」シツカ「リト」罪「業」深「き」ト「地」ハ「前」ノ「気」ヲ受ケテ「思」り「や」る「そ」悲「し
き」レ「ト」開メテ謡フベシ

十二枚裏

「紅」花「の」ま「乃」何「れ」た「レ」曲「ハ」極「々」開カニ謡ヒ出シ「朔」の「夜」よ「う」ら「ふ」ト「打」切「前」開
メル心「松」風「菫」月「ヨリ」戻シ「う」ら「く」あ「ら」る「あ」ト「気」ヲ変へ「翠」帳「紅」圍「ヨリ
開カニ」か「く」思「ひ」を「り」あ「が」ら「ト」開メテ謡フベシ

十三枚裏

「あ」れ「時」を「色」よ「う」上「端」シテ「ハ」開カニ「ノ」ンビリト「又」或「時」ハ「ヨリ」地「ハ」受ケテ「あ」ら「う」海「お
ら」る「ト」開メル心「あ」ら「う」此「ノ」地「ハ」ノンビリト謡フベシ

十四枚裏

「序」ノ「舞」五「段」

十五枚裏

「冥」相「無」偏「乃」開カニ「隨」縁「若」乃「ト」地「ハ」乘「リ」テ「浪」乃「在」ち「お」も「ハ」乘「ラ」ズ「開カニ」以
下「地」ハ「サラリト」別「き」路「も」ト「抑」へ「花」よ「紅」紫「ト」地「ハ」サラリト「あ」ら「う」あ「ら」ト「開
メル心」思「へ」バ「切」リ「乃」宿「シ」テ「ハ」乘「ラ」ズ「ニ」氣「ヲ」カヘ「テ」謡ヒ「思」へ「バ」概「乃」宿「ト」地「ハ」氣「ヲ」カヘ「テ
開カニ」白「雲」よ「う」ち「雲」く「ト」心「シ」テ「有」緒「く」ら「う」冬「先」仲「れ」ト開メテ謡ヒ納ムベシ

十六枚裏

「平」調「返」 賜「留」 彩「色」

小書

「冥」相「無」偏「乃」開カニ「隨」縁「若」乃「ト」地「ハ」乘「リ」テ「浪」乃「在」ち「お」も「ハ」乘「ラ」ズ「開カニ」以
下「地」ハ「サラリト」別「き」路「も」ト「抑」へ「花」よ「紅」紫「ト」地「ハ」サラリト「あ」ら「う」あ「ら」ト「開
メル心」思「へ」バ「切」リ「乃」宿「シ」テ「ハ」乘「ラ」ズ「ニ」氣「ヲ」カヘ「テ」謡ヒ「思」へ「バ」概「乃」宿「ト」地「ハ」氣「ヲ」カヘ「テ
開カニ」白「雲」よ「う」ち「雲」く「ト」心「シ」テ「有」緒「く」ら「う」冬「先」仲「れ」ト開メテ謡ヒ納ムベシ

口口

^{釋天}月^{ツキ}も^{トモ}あ^トら^トぶ^トく^トせ^トら

^{ヨク}あ^トら^トま^トす^ト是^ト多^ト諸^ト國

一^ト見^トれ^ト僧^トま^トて^ト作^ト我^トい^トま^トす^ト津^ト乃^ト國

天^テ王^ウ寺^ジよ^シあ^トら^トび^トの^ト程^トよ^ト此^ト度^ト思^トの

立^タて^ト王^ウ寺^ジよ^シあ^トら^トむ^トや^トと^ト思^トひ^ト作^ト

^都を^トば^トま^トす^ト夜^ト深^トさ^トは^ト極^トま^トす^トく

渡れば川永行末ぬどこの芦花ほ
乃んえり松乃煙の浪よもるに口
かまはさきりく シカク 松は是
あつぬ江口乃君の舊跡や痛り
や具才ぬ去平の埋せとらんを各成
さまりて今迄も音はるなり旧
跡をいぬみかたの表はるもきもや

西行法師の世にやいづれの歌の音に
きかぬあつぬ アハレ 平の埋せとらんを各成
をいぬみかたの表はるもきもや
どうぞ惜しむれと諷きしも洗
可きその事あるぞ トス さらさら
登候 ミテ 女房 ハ あつぬ オシ 成法 ソウ 僧 ゾウ 今
乃予をいづれ思ひなりてなむち

さびし給ケルるケり
かえぬ方ケよりルもロ性ニ一人ニ集ミりテつク
今ノ諒ヲすル者ニつクちハまハしメひメひメひメ
とウを給りケルル也ノもハ行ハぬル事ヲぶレんヲ
忘レんル年ト経レぬル思ハひノうエし言
^{上カハル}の成入ルちハのかまハぬル露ヲ其ノ心ヲ
とシてハいハしメさシめテつクの指づクんトもハ

惜シむルの日来ル哉ニつクまハきレ
なシの心惜ムるノまハらレばハ其ノ心ヲ
もハいハしメるルはハ此ノ顯ノき出るル
ありコトの目めノりレ宿リを惜むル
君ガあリ西行法師ノ諒を跡を踏むル
唯ハとある吊りノあリの心を惜むル
まハらレぬ心を惜むル心ノ静カくハらレんト

泣き惜まぬ候乃宿ありてさくさく
や惜しむも涙のうらみぬいし
今とても松人の世語よ
めはらひらう
まき及泣もたそぐれよ
きいれん
歌さほりく
泣き惜まぬ候乃宿ありてさくさく
や惜しむも涙のうらみぬいし
今とても松人の世語よ
めはらひらう
まき及泣もたそぐれよ
きいれん
歌さほりく

くぬはに口乃流きつ君とやんえん
ちづりや
宿乃梅のたちえ
思ひ乃
陰うも宿
水は
くぬはに口乃流きつ君とやんえん
ちづりや
宿乃梅のたちえ
思ひ乃
陰うも宿
水は

君乃 幽窓イカドと聲コエづりして 笑ウツふ
 きりく史 梅ウメの口クチ乃 君乃 幽窓イカドか
 こよ 題アラハき 神カミよ 我ワレも かつ みるぞや
 いな 糸イトの ちチりリとト 上ウヘ 舞マヒひも あり
 ね 月ツキも み 渡ワタる 行イ
 水ミヅよ 舟フネなる 子コ舟フネに 月ツキも
 ち 思オモひ 流ナガれ ちチりリとト 上ウヘ 舞マヒひも あり
 ち 思オモひ 流ナガれ ちチりリとト 上ウヘ 舞マヒひも あり

わが 逢アヒ願ノゾの 浪ナミま ちり ちり
 夢ユメも ちり ちり ちり ちり ちり ちり
 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり
 浪ナミの 唐カラ土ツチ乃 ちり ちり ちり ちり
 乃 橋ハシひめ ちり ちり ちり ちり ちり ちり
 乃 ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり ちり
 や 芳ヨシ野ノの 花ハナも ちり ちり ちり ちり
 浪ナミも

さ...
さ...
十二因縁乃流精ハ車れ子ハは...
前生...
身ハ...
妻世...
終...
あ

あ...
入...
或ハ...
僕...
あ...
受...
業...
あ

あまの行乃遠き女とあるはまの
世の酌いさし思のちるそ悲しきれ
紅花の春乃行乃紅錦繡の山粧と
あひとみえし夕の月あつれ紅
紫の秋乃夕黄顔顔れ杖あそむ
と入在服のあまのら子松風月
よ詞とつひん賓客もどつとあつるや

あまの翠悵紅顔の杖とあまの妹背
まいつらまよかつらつらん杖よそあ
まの木情あまの倫り度そを道
まのまかくたなひまのちるあ
あまの色しつらあ負系乃思乃清ら
あまのあまの色とあ愛執のあ
あまの思乃口よりあまの言乃縁とあまのあ

罪をづかすもきんらるごとく後子
 味ふう詠あるぞ 上地 女上
 相無偏大海よ五塵六欲の風ぬ
 娘ももも随縁善か乃波のどそぬ
 目色あしく浪乃たちおもあふ
 ゆきう假あるやどるよ 下女
 みるるちとびるゆき

上地 女上
 うろとあびかうも母もあふ
 とも志すつ 上地
 花よも文ぢう月
 雲乃あふもあふりあや
 下女
 心もあふ人をたふいさめ 女上
 是までありや婦あて 女上

美薩とありしれに白家とあり
 つらきりもよ白妙に白雲より
 西乃空より有種く
 松尾ゆきありがさくさく
 白家とあり

大正五年十一月廿五日 印刷
 大正五年十二月一日 發行

復製不許



訂著作者 觀世元滋

京都市上京區三條通麩屋町東北角

發行兼 印刷者 檜 常之

印刷所 江 川 堂

(電話番町八六一)

東京市四谷區傳馬町貳丁目十九番地

(圓電話上二千百九)



177
267

終

